

幼児期の終わりから小学校入学への円滑な接続

幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に当たっては、一方が他方に合わせるのではなく、それぞれの発達の段階を踏まえた活動を充実させ、お互いの教育・保育を理解し合い、子供の育ちや学びをつないでいくことが大切です。小学校へ入学した児童が、幼児期の教育における遊びや生活を通じた学びや育ちを基礎として、主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるように、接続の時期の必要な取組をまとめました。

下記の事項について認定こども園・幼稚園・保育所等と小学校がそれぞれ確認を行い、両者間の連携に努めてください。



認定こども園・幼稚園、保育所等



小学校・義務教育学校

2月下旬
～
3月上旬

- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識して、指導計画の作成と実践・評価（年間を通して）
- 子供の育ちの様子を伝えることができるように準備
- （個人記録・抄本等）の整理

引継ぎ・連絡会
配慮を要する幼児に加え、園での幼児の様子、育ってきている力、保育者の援助の在り方等についての引継ぎ

- 連絡会においての引継ぎ内容を受けて、次年度のスタートカリキュラムの見直し・改善
- 引継ぎ内容を全職員で共有
- 新担任への確実な引継ぎ

3月中旬
～
3月下旬

- 育ってきている力や参考となる働きかけ等を簡潔に記入
- 一人ひとりの子供への理解を深めるための資料として、抄本・要録の活用を伝える。

指導要録の抄本（幼稚園幼児指導要録・幼保連携型認定こども園園児指導要録・認定こども園こども要録・保育所児童保育要録）の受け渡し

- 入学前に必ず読み、一人一人の育ちを把握（クラス別に分けておく）
- 常時読み返し、授業や支援に生かす

4月

- 入学後の子供の様子等について、随時小学校と連携

引継ぎ
入学前に、再度引継ぎ事項の確認

- 引継ぎ事項を確認し、必要に応じて、卒園した園に聞き取り

- 授業参観等を通して、子供の育ちについての気づきについて小学校と情報交換
- これまでの支援や保護者対応等についても共有

スタートカリキュラムの実施

- 実施後の気づきを記入

情報交換時の内容を園へ持ち帰り、園としての課題等は、職員間で共有し、指導計画等へも反映する

情報交換会
（入学後の様子について）
児童の様子や実施したスタートカリキュラム、園・所等の教育・保育計画等についての意見交換

- 授業参観等の後に、情報交換会等を実施し、入学後の様子やスタートカリキュラムについて意見交換

情報交換時で得た内容について、児童理解、保護者理解等の支援や授業に生かす

日常的な交流・連携等

- ◇双方のねらいを設定した交流活動
- ◇年間計画への位置付け
- ◇交流活動等の振り返り

互いの教育を理解していることが大切です。日頃から、交流活動や保育・授業の相互参観等を実施し、連携を図っていきましょう。

事例：アンケートを通して要録の活用をすすめる・・・・・・・・・・♪



① 取り組み実施範囲 市内全域で実施

② 取り組みをはじめたきっかけ

平成20年より小学校へ保育所児童保育要録（以下、要録）提出が必須になりました。学校教育審議員の方とともに要録の内容および様式の検討を行ったことをきっかけに、円滑な接続のための取り組みを始めました。

③ 取り組みの詳細

当市では、園から小学校への円滑な接続をめざし、要録の運用を工夫しています。

要録は学校教育審議員の方と相談し、小学1年生の担任やクラス編成が決まった後の入学式の3～4日前の2日間に持参します。

その後、要録を誰が読み、どのように感じたか等、要録をより子どもの育ちへ活かすため、小学校教諭を対象に、アンケートを毎年行っています。集計結果をもとに、要録の意見交換会を小学校教諭と保育者で行い、共通理解をはかっています。

また、保育者は要録の書き方研修会を行い、子どもの育ちをより「伝える」ことができる要録をめざして、スキルアップをはかっています。

④ 取り組みによる変化や効果

小学校と各園が、要録の内容の共通理解をはかることで、保育者は要録を通して小学校教諭へ伝えるべき内容が、明確になりました。小学校でも、園との意見交換の機会があることで、要録の積極的な活用につながっています。要録が「子どもの育ちを支える」ための資料となっていることを実感します。

出典：社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育士会「子どもの育ちの連続性を確保するために～保育所・認定こども園から小学校への円滑な接続をめざして～」

